

情報科教育法b

第4回

スケジュール 2024

授業	Date	開催	内容
1	8/19	梅田C	ガイダンス、様々な模擬授業を見る
2	8/19	梅田C	情報Ⅰ～情報社会と問題解決
3	8/19	梅田C	情報Ⅰ～コミュニケーションと情報デザイン
4	8/19	梅田C	アクティブラーニングとチーム・ティーチングについて
5	8/20	梅田C	情報Ⅰ～コンピュータとプログラミング
6	8/20	梅田C	情報Ⅰ～情報通信ネットワークの活用
7	8/20	梅田C	チーム・ティーチングの模擬授業 (10分×13人)
8	8/21	梅田C	情報Ⅲについて
9	8/21	梅田C	情報Ⅲについて+指導案
10	8/21	梅田C	模擬授業 (15分×6人)
11	8/21	梅田C	模擬授業 (15分×7人)
12	8/22	梅田C	模擬授業 (20分×5)
13	8/22	梅田C	模擬授業 (20分×5)
14	8/22	梅田C	模擬授業&総括 (20分×3)

本日の内容

- 前回の演習の発表
 - Formによる評価
- 情報におけるアクティブラーニング
- チーム・ティーチングについて

アクティブラーニングについて

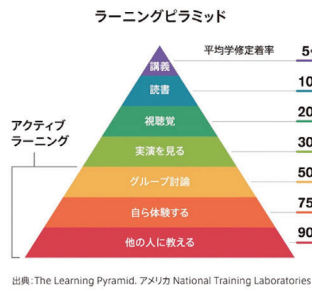
アクティブラーニングって

教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称
学習者が能動的に学修することによって、**認知的、論理的、社会的能力、教養、知識、経験**を含めた汎用的能力の育成を図る
発見学習、問題解決学習、調査学習などが含まれるが、教室内での**グループ・ディスカッション、ディベート、グループワーク、ICTの有効活用**によっても取り入れられる

アクティブラーニングって

一方的な知識伝達型講義を聴くという（受動的）学習を乗り越える意味での、あらゆる**能動的な学習**のこと
能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる**認知プロセスの外化**をとまなう
Society 4.0から考えられた教育のスタイル

アクティブラーニングって



2020年度の学習指導要領では、
アクティブラーニングの
文言がなくなった
主体的・対話的な深い学び

満上慎一 (2014) 「アクティブ・ラーニングと
教授学習パラダイムの転換」 東信堂

7

アクティブラーニングの例

ALの例①『学び合い』

子ども同士で教え合い、学び合い、自発的に学習していく授業

「1人も見捨てない」で「全員が課題を達成する」

- ① 教師が課題を与える (5分)
- ② 「きき、どうせ」と促し、子どもが動く
立ち歩き、おしゃべりOK (40分)
- ③ 成果を振り返る (5分以内)

【効果】
成績向上、人間関係の改善、教師がゆとりを持って、すぐに効果が出る
人と係り合える人間に育つ (論理観の向上)
話し指導と同じ

西川 純 (2015) 『すぐわかる! できる! アクティブ・ラーニング』 学研書局

【実践例】

立命館宇治高等学校「物理」「国語」で「サイボウズLive」を使ったディスカッション
近畿大学付属高等学校「数学」の「反転授業×共同学習」
都立西国高等学校「英語」のディスカッション、ディベート、「4コーナース」
.....

・教員1人で実施する
とどんな感じになる
のだろうか?

8

アクティブラーニングの例

- ・アクティブラーニングは、板書などをすることがない
実習・演習形式が多い
- ・教科情報では、実習・演習も交える必要性
 - ・専門教科では50%以上を 実習・演習 にする必要性



- ・そのためには.....情報端末をうまく活用する

10

情報での実習と演習

- ・コンピュータを使った実習や演習が主流になる
- ・どんな問題があるのだろうか

1. 学校配布の端末を利用する場合
2. 児童生徒が持ってくる端末を利用する場合

11

公立学校の状況

GIGAスクール構想
1人1台端末
(2022年度でOK)

文科省平成29年度学
校における
教育の情報化の
実態等に関する調査

1) 学校におけるICT環境の整備状況	今回	前回
・教育用コンピュータ1台当たり児童生徒数	5.6人/台	(5.9人/台)
・普通教室の無線LAN整備率	34.40%	29.60%
・(参考)普通教室の校内LAN整備率	90.20%	89.00%
・超高速インターネット接続率(30Mbps以上)	91.50%	87.30%
・(参考)超高速インターネット接続率(100Mbps以上)	62.50%	48.30%
・普通教室の電子黒板整備率	26.70%	24.40%
・教員の校務用コンピュータ整備率	120.00%	118.00%
・統合型校務支援システム整備率	52.70%	48.70%
2) 教員のICT活用指導力	今回	前回
・教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力	84.80%	84.00%
・授業中にICTを活用して指導する能力	76.50%	75.00%
・児童・生徒のICT活用を指導する能力	67.10%	66.70%
・情報モラルなどを指導する能力	80.60%	80.00%
・校務にICTを活用する能力	80.20%	80.20%

12

BYOD (Bring Your Own Device)

- ・ICT教育には、パソコンやタブレットは重要
- ・アクティブラーニングでも機器があると便利

従来は、学校でパソコンや
タブレットを用意し、
授業を行う



生徒が個人の端末を学校に
持ち込み、学習に活用
するのがBYOD(Bring Your
Own Device)

13

チームティーチングについて

演習科目の難しさ

- アクティブラーニング形式の授業に限らず、情報の実習・演習では教員1人でクラスを仕切るのが難しい場合がある
 - プログラムを書いていると予期せぬエラーがたくさん
 - 文書の文字入力がうまくいかない
 - 遊びだす児童生徒が出てくる可能性

↓ チームティーチング

チームティーチング (TT)

- 特別支援学校では、ほとんどの授業がTTで行われており、欠かすことのできない
- TTは、授業自体や児童生徒の学びを支えている
- TTは、1950年代にアメリカで始まった教育形態で、1960年代に日本に紹介
 - 日本の障害児教育では、養護学校教育義務制に向けた複数担任制と、その後の教員定数の改善の流れの中で、障害の重度化・多様化に対応する方策として全面的に取り入れられ、一般的な教育形態として定着

チームティーチング (TT)

- TTの定義は、「2人以上の教員がチームを組み、児童生徒の教育に責任を持って当たる協力型の授業組織である (Shaplin,1964)」が一般的
 - 「協力教授」「協力教授組織」などと訳されている
- TTは、「複数の教師がチームとなり、各教師の特性を生かしながら、子ども集団を対象に、指導の全部または一部について共同で責任を負い、協力して指導に当たること」

TTの学習形態

1. 単集団 (全体支援) 型
2. 単集団 (個別支援) 型
3. 単集団 (小グループ支援) 型
4. 複数集団 (グループ巡回支援) 型
5. 複数集団 (グループ分担支援) 型
6. 複数集団 (合同学習支援) 型

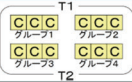
TTの学習形態

I 単集団 (全体支援) 型 • T1が全体を進める。T2は、集団全体を見ながら、支援が必要な子どもを支援する。T2は学習課題の理解を助ける、活動を補助するなど、課題や場面に応じた支援を行う。	
II 単集団 (個別支援) 型 • T1が全体を進める。T2は、特定の子どもを支援を担当する。 • 全体の授業のねらいに沿って、担当の子どもが同じ学習活動を行えるよう支援する。 • 学習集団が比較的等質で、特定の子どもに支援が必要な場合に用いられる。	
III 単集団 (小グループ支援) 型 • T1が授業を進め、T2は、支援が必要な複数の子どもの支援を担当する。 • 全体の授業のねらいに沿って、同じ学習課題でなく、特別な課題や実態に応じた課題を設けて学習する。	

TTの

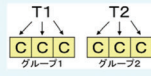
IV 複数集団（グループ巡回支援）型

- 小集団で学習を進め、教師はグループ間を巡回して指導する。
- 同じ課題や異なる課題、等質、異質集団など、活動内容や集団構成に多様な幅がある。



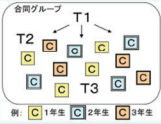
V 複数集団（グループ分担支援）型

- 小集団で学習を進め、教師は担当するグループで指導する。
- 同じ課題を少人数で、細やかな配慮で学習したり、子どもの様子に応じて設定された異なる活動をしたりする。
- 同じ教室内など、共通の場で行うと、教師間で学習進度を調整し合いながら進めることができる。
- 別教室など、離れた場所で行うと、学習や活動内容に幅を持たせることができる。



VI 集団連結（合同学習支援）型

- ダイナミックな活動をねらい、大きな集団で学習する。T1が全体を進め、T2などが支援する。(1型と同じ)
- 複数学年、学部全体といった集団で行うことで、活気あるダイナミックな活動が期待できる。
- 集団が大きいため、有効に機能するためには、事前の打合せを十分行う必要がある。



- ※ T2がT1を補助する「補助型」(例:音楽でT2がピアノを弾く)や、T1とT2が交互に指導する「演示型」(例:子どもの前で演じて見せる)を加えることもあります。

21

TTの進め方

- TTを機能させるためには、
 - 授業づくりの各段階 (1. 指導計画の立案、2. 必要な教材・教具の準備、3. 指導の実施、4. 評価と反省) において、教師が協同で進めることが大切
- 教師同士が授業に対する十分な共通理解を図ることが必要
- 【TTで共通理解する内容】
 - 子どもの個別目標
 - 授業展開
 - 役割分担
 - 展開や活動内容、個別目標を考えたTTの指導・支援内容の確認
 - 評価 (児童生徒の姿、教師の手立て) 効果的な指導

22

演習－TTによる模擬授業

- 2名以上3名以下で教科情報におけるTTの模擬授業を行う
- テーマは「情報デザイン／プログラミング」のいずれか
- 指導案は10分の指導案を作成すること
 - 指導案を所定の場所に提出すること
- 指導案には、**主担当**、**副担当**と記載しておくこと (主担当が作成し、副担当にチェックを見てもらい、確認が取れたらOK)
 - 主担当と副担当を1回ずつ

23

課題

- 教員1人におけるアクティブラーニングのメリット/デメリットを考えてみてください
 - TTにおけるアクティブラーニングのメリット/デメリットを考えてみてください
 - 教員の立場からしてBOYDについてメリット/デメリットを考えてみてください
 - TTについての必要性和現状について考えてみてください
- 提出：Googleフォーム
 - 締め切り：8/31の17時まで

24

次回

- 1限目、2限目：情報Ⅰの内容
- 3限目：TTの対面授業を行います

25